

私は前期に3回中国からの留学生に日本語教師として、日本語を教えた。この3回の実習を通して、自分が成長できた部分とこれからどうしていきたいかまとめていく。

[1]

実習授業をした時の戸惑いや困惑は、(1)学習者の発言に対するフィードバック、(2)答えがはっきりしていないものへの訂正、(3)時間の管理である。「(1)学習者の発言に対するフィードバック」では、どの発言にどうフィードバックするのが良いかが難しかった。違うという否定的フィードバックだけでなく、良いところをほめるという肯定的フィードバックも取り入れようと努力した。最初の授業では肯定的フィードバックをできずに否定的フィードバックだけだったので、2回目の授業でのロールプレイでは肯定的フィードバックを取り入れるように努力した。「(2)答えがはっきりしていないものへの訂正」では、どのようにして間違いを正しくするのが難しかった。最初はこちらでどこが違って、正しいものはこれであるという形で直していたが、2回目と3回目では学習者にいくつか答えを出してもらいつつ、こちらが考える答えが学習者の口から出なければ最後にこういうのもあると、紹介のような形で提示した。2回目の授業からロールプレイの訂正の時、訂正箇所を板書し、その文章をどう直すのがいいか学習者自身に考えてもらうためにすぐには訂正せず先に質問した。「(3)時間の管理」では、時計を確認する余裕がなかった。授業を進める中で教案通りにきちんと進むのではなく、学習者の理解の速さに合わせて授業の進行を臨機応変に対応できるように意識した。毎回、時間が押しぎみで授業が進んでいったが、学習者への質問や学習者からの質問・疑問、ロールプレイなど等に要する時間を考えながら、教案のなかからするものとしなないものを選んだ。また、学習者の学習の速さに合わせるように努力した。

[2]

次に授業の準備・本番・反省会について分けて述べていく。まず授業の準備に関しては、「教材はどのようなものが良いか。」「どういう順番で進めたらいいか。」について述べる。最初の授業の準備では、とりあえずそのものをイメージできるように絵カードをロールプレイ用にだけ作った。2回目、3回目の実習授業になってくるとこの教材があった方がいいと少しずつ考えながら教材を作ることが出来た。また、絵カードだけでなく文字カードや小道具も準備することもできた。順番は自分で決めるのはまだ難しいため教科書をそのままやっていたが、ロールプレイの練習問題では削ったり、加えたりしながら授業を構成した。

次に授業の本番についてである。「どう説明するか。」「学習者が板書をテキストに書き写した時。」「学習者が中国語で話した時。」「フィードバック。」の4点について述べていく。「説明の仕方」では最初はとりあえず言葉で説明していたが、2回目・3回目では、文字カードや絵カード・小道具を使って説明した。つまり、聞く情報を減らし、なるべく視覚

情報を多めに利用していった。ロールプレイでも音声練習の方でもなるべく簡単な言葉で、視覚情報を主にして説明するように心がけた。声の大きさも少しずつ大きく、はっきりとようになってきているのかなと思った。「学習者が板書を書き写す」ということは学習者にとって新たに学んだものか、覚えていなかったものであると私は考えているので、書き写してくれた時は自分の授業が役に立っていると思えて嬉しかった。「学習者が中国語で話した時」は、自分の説明がうまく伝わっていないときで、悲しかった。これは説明の仕方です。通り、聞く情報を減らし、視覚情報を増やしていきたい。さらに、簡単な言葉を使って説明が出来るようにしなければならぬと思ひ、2回目以降、そうできるよう考えながら授業の準備をして、授業を行った。「フィードバック」では最初に比べて肯定的フィードバックを使えるようになった。否定的フィードバックでも学習者が学習意欲を維持できるように注意した。さらに、訂正するときもフィードバックと同じように学習者が学習意欲を失わないように努力した。さらに、間違いを訂正する際、音声練習ではあっているものと間違えているものの2つを発音しようと頑張った。また、ロールプレイでは間違いを板書して、間違いを学習者自身に訂正してもらおうと思ひ質問した。さらに、私たちが思いついたものも追加していった。

最後に反省会では、「先生と周りの人からのコメント。」について主に書く。アドバイスや挑戦したなどの言葉は、自分の成長につながれると思ひ嬉しかった。

[3]

2回目の授業のロールプレイで最後の問題をしている時、留学生 A さんの方がほとんど答えていたので、A さんと B さんの両方が均等に答えられるように交互に当てる方が良いと思ひました。また、A さんと B さんは日本語のレベルが中級から上級で言葉が結構通じるといふことに少し甘えてしまひ、少し難しい言葉も混ぜて説明してしまひました。だから、このレポートで何度も言ひました通り、簡単な言葉で視覚情報を主に使ひて説明が出来るように努力したいと思ひている。さらに、説明する時は教科書ではなく前を向ひてもらえるようにしたい。また、教科書に授業を回してもらっていたように感じたため、学習者と教師で授業をまわしていけるようになりたいと思ひました。さらに、学習者が学びやすいような雰囲気を作るために、ロールプレイなどで恥ずかしがらず思ひ切つて堂々と授業をおこないたい。そのために、自分の授業に自身が持てるよう、多くの練習を積み重ねていきたいと思ひている。また、たくさんの人の意見を聞いたり、読んだり、授業を見たりして、良いと思ひた部分を少しずつ自分の授業の中に取り入れていき、授業を教師にとつても学習者にとつてもより良いものとなるようにしていきたい。